

Ai研 NewsLetter No.8

相澤病院卒後臨床研修センターニュース

2012年4月10日

Wide and Deep

Shigeaki Kobayashi, MD

Medical Education and Research Center, Aizawa Hospital

Congratulations on your starting Kensyui-residency program at Aizawa Hospital!

In the United States, graduation ceremony is also called commencement, so that it may not be inappropriate to introduce my congratulatory words at a graduation ceremony to those of you who are starting residency.

Looking back what I have done in my life as a physician and what I was thinking on the way, I thought I could make a small but I believe important suggestion to you on the occasion of your starting your medical career.

Attached you will see the text of my congratulatory words which I had a chance to speak in front of graduating students of Shinshu University School of Medicine last March as a guest. All it amounts to is a simple phrase “Deep and wide”. This holds true especially when you are in training as a Kensyui-resident. As most of the residents are going further in a certain specialty field in the future, studying widely by rotating among many disciplines during their residency period are important. In this way you can go higher or deeper than when you go directly to a specialty field after graduation from the medical school. When you see the beautiful peak of Mt. Fuji above the clouds, you should realize how widely its foot spreads.

みなさん、相澤病院によろこそ！

これからの医療人としての研修を始めるにあたり、アドバイスの言葉を贈ります。最近、信州大学医学部の卒業式の祝賀会で卒業生に贈った言葉ですが、アメリカでは卒業式のことを Commencement（はじめる）と言うように、研修を始めるみなさんに参考にしていただければ幸いです。

(信州大学医学部卒業祝賀会祝辞より)

卒業生のみなさん、本日はご卒業おめでとうございます。皆さん方にはこれから長い医療人としての人生が始まります。ぜひ後悔のない人生を送ってください。

あなた方が医学部在学中に大部分の時間とエネルギーを費やしたことは、基礎的な、また最新の医学を勉強したことです。つまり主として自然科学の手法を使って解剖・生理・病理・遺伝子・診断学等いろいろな分野を勉強してきたわけです。しかし、今後医療の場で行うことは患者を人間としてみることに、つまり社会科学的・人間科学的な見方を常に意識してゆくことが非常に大切になります。

「赤ひげ」という映画を見た人がいるかと思いますが、患者さんに対する分け隔てのない、思いやりのある対応が中心の映画です。ただ、過度の「赤ひげ」的なだけの医療では現代医療は成り立ちません。加えて自然科学的研究に基づく最新の医療を施す努力を、常にすることも非常に大切です。

今日は、私がみなさんに贈る言葉として、「広く、深く」という言葉を選びました。英語では“Deep and Wide”, ドイツ語では“Tief und Weit”ということになるのでしょうか。今述べた、医学・医療を自然科学として深めることと共に、広く社会科学・人間科学としてあなた方自身のスコープを広げていくことはその一つの例です。

皆さんには「広く深く」をすぐ実践する機会が待っています。それは、卒業してすぐに始まる卒後臨床研修、つまり初期臨床研修です。この2年間は、臨床の多くの科を回って「広く」臨床を勉強する機会です。そして、その上に立って以後の後期研修・大学院等で特定の専門の科を選び、それを「深く」掘り下げて研鑽してゆくことになります。

人間関係はどうでしょうか？医療分野に限らず、広くいろいろな人々に接し、コミュニケーションをとることが大切ですし、指導医・指導者など深く密接に関わることも大切です。これは医療の現場でチーム医療の実践にも役立つことですし、自己形成においても有用です。

人間関係の広がりに加えて、活動する場の広がりも大切です。たとえば、研究の場を大学あるいは病院の場のみに限定するのではなく、国内・国外に目を広げて勉強し交流することが大切です。私自身留学を含め、外国との交流が多かったのですが、自分が人間的にも学問的にも成長することができて良かったと思っています。

このように皆さんがこれから生きて行く場合にこの「広く、深く」はいろいろな場にも有用になります。

この「広く見ること」と「深く見ること」は相互に影響しあって高め合うメリットがあるということです。「広く見る姿勢」は「深く物事を追及する場合」に役立ちますし、「深く追求すること」で得たものは「広く見る場合」に役立ちます。

そしてもう一つ、「広く見たり」、「深く見たり」の両方をするには忙し過ぎてできません、という諸君がいるかも知れません。私の経験から、あるいは他の人の観察から分かったことは、忙しい時ほどいろいろな仕事ができる、できてしまうということです。1+1=2という数学ではないということです。

ぜひ皆さん、意欲と意志をもってそれぞれの人生に「広く深く」挑戦してください。以上です。本日はおめでとうございます。

医学研究研修センター長

小林 茂昭